

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第7回研究委員会 議事録

1. 日 時：2013年11月22日（金） 10:00~12:00
2. 場 所：株式会社奥村組 9階 902会議室
3. 出席者：生田、大原、奥村(H)、後藤、小山(H)、佐藤、島村、末松、高田、仲村、三上(H)、村上、柳原、山本
4. 資料：
 - 資料 7-1 第7回研究委員会 議事次第
 - 資料 7-2 第6回研究委員会 議事録（案）
 - 資料 7-3 第6回避難の課題調査・分析部会（都市避難部会）議事録（案）
 - 資料 7-4 津波避難実態調査資料収集分析部会 作業報告
 - 資料 7-5 シミュレーション部会報告
 - 資料 7-6 EASTS2013（東アジア交通学会）evacuation session における発表論文表題およびキーワード
 - 資料 7-7 論文特集号計画
 - 資料 7-8 第14回日本地震工学シンポジウム（2014）におけるオーガナイズドセッションの募集
 - 資料 7-9 MLと部会の略称について
 - 資料 7-10 2010年チリ・マウレ地震の被災地域ビオビオ州における津波対策ヒアリング調査
5. 議事内容
 - 5.1 議事確認（佐藤委員）
 - ・ 第6回研究委員会の議事録の確認を行った。特に修正意見なく承認された。
 - 5.2 メンバー自己紹介
 - ・ 大原委員から自己紹介があった。
 - 5.3 講演「2010年チリ・マウレ地震の被災地域ビオビオ州における津波対策ヒアリング調査」村上委員（資料7-10）日本地震工学会大会2012梗概集
 - ・ 以下の質疑があった。
 - ・ 死亡率が1%に満たないのは何が大きな要因か？
 - この調査の後、今年4月に Tumbes の集落にてアンケートを実施。「地震が来たら津波だということで、とにかく早く高い所に逃げる」ことが伝承されてきたとの回

答が多い。

- コンセプション大学の先生によるとチリの海岸に住む人は地震があれば津波に備えるという教えを代々伝えてきているとのこと。
- 1960年のチリ地震時、この地方の津波被害が今回より激甚だったので今回の避難行動に影響したということでもなさそうだ。
- 家族の教えとそれを教訓とし伝承する仕組みやメンタリティなどに着目している。
- ・ 家屋の浸水状況、全壊率、避難行動のデータは？
 - 家屋の浸水状況、全壊率は今年の12月に調査予定。
 - アンケートによると地震後5~10分以内には皆家を出ている。交通手段は大半が徒歩。避難先までの所要時間は10~25分。親や祖父母から避難の教えを繰り返し強く言われていたという人がほとんど。
 - こんなに大きな地震があったら必ず津波がくるという意識で逃げた。
- ・ スライドで学校の先生が合理的に教えるというキーワードの意味は？
 - 充分は把握できていないが、防災教育の教材とか学校の危機管理計画のプロトタイプを国で作成し州から市へおりてくる。学校ではそれに地域特性を加味する。学校の危機管理計画策定には保護者も参加する。
- ・ 逃げないで家の中に留まった人の死亡率は？
 - 12月にコンセプション大学と共同で1週間ほどヒアリング調査を実施予定。地図上に避難経路をプロットする計画。

5.4 都市避難部会報告

- ・ (資料7-3)により大原委員から報告があった。

5.5 津波避難部会報告

- ・ (資料7-4)により佐藤委員から報告があった。
- ・ データのとりまとめについては最近やや滞っていて現在状況を確認中。
- ・ リンク集は中土佐町の意見交換会が終わってから実施予定。
- ・ 意見交換会は中土佐町で12月8日に開催する予定で調整中。
- ・ 以下の意見、質疑があった。
- ・ データとりまとめについて土木学会報告書等に公表場所を明示できる形を早急に整えたい。
- ・ データの保管場所について具体的に検討したい。
- ・ 保管場所については2か所ぐらいが必要である。国土交通省の復興支援調査アーカイブなどを参考とする。
- ・ 土木学会のアーカイブスや地震工学会のホームページを基本的な候補として今後検討を進めていきたい。

5.6 シミュレーション部会報告

- ・ (資料 7-5) により末松委員から報告があった。
- ・ おおむね今年度中には3つの解析コードの **Verification** と **Validation** の試行的な段階はクリアする見込みである。
- ・ 実際に起こった複雑な現象を本当に再現できているか、どこまでシミュレーションに期待するかは課題である。
- ・ 以下の意見、質疑があった。
- ・ **Validation** を目的として、どれだけデータがそろっているかは避難部会でクリアにしなければならない。
- ・ この地域の人・車がそれぞれどのルートで何%ぐらい逃げたかの把握ぐらいを目標にしたい。
- ・ ポスティング、ヒアリングの記録を **OD** のデータとして早急に整理したい。
- ・ 4月以降(年度末を避ける)の委員会で現状のシミュレーション結果を簡単に報告していただく。

5.7 国際部会報告

- ・ (資料 7-6) により島村委員から報告があった。

5.8 論文特集号

- ・ (資料 7-7) により柳原委員から報告があった。
- ・ 以下の意見、質疑があった。
- ・ シミュレーション部会で一人幹事の方を選んでいただく。
- ・ 早急に幹事で集まって方針を決定する。

5.7 震災対策技術展について

- ・ 後藤委員長から報告があった。
- ・ 津波避難部会、都市避難部会、シミュレーション部会それぞれから成果を講演する。
- ・ 研究的な成果報告会は工学院大学で3月10日に別途実施する。
- ・ 資料代はこの委員会から出す。

5.8 地震工学シンポジウムについて

- ・ (資料 7-8) により後藤委員長から報告があった。
- ・ 来年の12月開催。オーガナイズドセッションの締切が今年末。
- ・ 本研究委員会での応募について今後メールで審議する。

5.9 本研究委員会の期限延長について

- ・ 本員会の延長について検討することになった。今後メールで審議する。

以上